自立活動だより

<校外向け>
第２号
令和７年１月８日（水）

聞こえを大事にする本校の設備紹介

今回は、本校で活用しているデジタルワイヤレス補聴援助システムについて紹介します。デジタルワイヤレス補聴援助システムとは、送信機が声を集音して、受信機を通じて補聴機器に直接届けてくれるものとなっています。そのため、周囲が騒がしく補聴機器だけでは聞き取りづらい場面や、話者と聞き手が離れている場面などで有効に働きます。

ここでは、本校で主に使用しているフォナックの「ロジャー」を例にとり説明していきたいと思います。

【デジタル補聴援助システムを使用していないときと、使用した時のイメージ図】



本校で使用している送信機



「ロジャー　タッチスクリーンマイク」

ソノヴァ社（フォナック）のデジタルワイヤレス補聴援助システムの送信機です。子どもが付けている受信機と接続して使います。本校では、指導者がマイクを首から下げて、話をしたり、授業をしたりと様々な場面で使用しています。このマイク単体で４０ｍ程度、デジタル電波が飛ぶそうです。

本校で使用している受信機



「ロジャー　マイリンク」

ソノヴァ社（フォナック）のデジタルワイヤレス補聴援助システムの首から下げて使うタイプの受信機です。Ｔコイル内蔵の補聴機器に使うことができます。この他には、補聴機器と一体型の受信機や補聴機器に取り付けて使うタイプの受信機があります。

本校で使用している周辺機器



「ロジャー　デジマスター」

送信機と接続して使用する線音源スピーカーです。話した声が、反響せず、距離によって音も減衰しにくいため明瞭に音を子どもたちの耳に届けることに有効です。本校では、体育館などの広い空間で儀式などを行う際に使用しています。

【儀式で線音源スピーカーを使用している場面】



聞かせたい相手の方向にスピーカーの音の出口を向けて設置しています。

本校で補聴援助システムを活用する際に大切にしていること

・送信機や受信機等に不具合がないか、定期的に点検をしています。一体型の受信機の場合も補聴機器の点検や普段の子どもの反応などを見取り、不具合等がないか確かめています。
・授業の場面において、送信機と受信機が接続できているか確かめています。（意図的に指導者が口元を隠し、マイクを使い名前を呼び掛けて反応するかどうか。）
・補聴援助システムの活用に加え、教室環境の配慮も行っています。子どもたちがより聞き取りやすい環境を作るために、騒音や雑音の原因になるものがないか注意しています。
・子どもたちが聞き取りやすい話し方と手話や文字、写真などの視覚的な支援を併せて行うことを意識しています。子どもたちの聞こえ方は様々です。補聴援助システムを使っただけでは十分でないことがあります。子どもたちの聞こえや発達段階に合わせて、様々な方法を活用しながら学習しています。